

2021年度のバタフライガーデン作成活動

大阪府立園芸高等学校 環境緑化科 ビオトープ部

1. 活動目的

園芸高校では50年前に書かれた「ひいらぎ6号」という機関誌があり、そこには5科44種の蝶の記録がされていた。現在は何種類の蝶がいるのか疑問に持ち、2020年より標本調査ルートセンサス法調査を行った結果、現在校内に生息している蝶は5科31種類の蝶を確認した。比較すると50年間で20種類ものチョウが園芸高校から姿を消していたことが分かった(表1)。チョウの減少の原因として人間活動や開発、里地里山などの人間活動の減少、外来生物による影響、地球温暖化(国の生物多様性国家戦略2021より)などがあり、蝶の幼虫のエサとなる食餌植物と、成虫のエサとなる吸蜜植物を植栽する庭であるバタフライガーデンを造ることが解決策であると考えた。

表1 50年間で減少した蝶の一覧

アゲハチョウ科	モンキアゲハ、カラスアゲハ、ミヤマカラスアゲハ
シロチョウ科	スジグロシロチョウ
タテハチョウ科	コムスジ、ルリタテハ、スミナガシ、コムラサキ キタテハ、ヒメウラナミジャノメ、ヒメジャノメ コジャノメ、ヒカゲチョウ、サトキマダラヒカゲ イチモンジチョウ、アサマイチモンジ
シジミチョウ科	ウラギンシジミ、トラフシジミ
セセリチョウ科	ダイミョウセセリ、ミヤマセセリ

2. バタフライガーデンの作成と飛来したチョウ

バタフライガーデンは校門近くにあり、蝶を観察しやすく、吸蜜植物であるアベリアの生垣があることからサンクンガーデンに作成することにした。

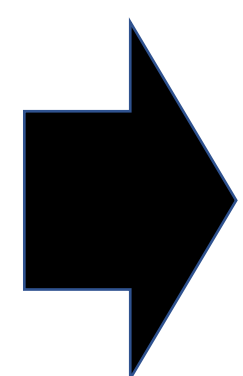
吸蜜植物を植栽する前のサンクンガーデンでは、吸蜜植物は10種類で飛来したチョウの種類は8種類であった。より蝶を飛来させるために吸蜜植物を吸蜜植物10種類から32種類に増加させた結果、吸蜜植物を増加させたことにより14種類の蝶が確認された。(表2)

表2 植栽前と後の飛来した蝶の種類

	吸蜜植物	飛来したチョウの種類
植栽前	ミヤギノハギ、イソギク、ムクゲ、ハマゴウ、アベリア、スイフヨウ、キョウチクトウ、シモツケ、コデマリ、ユキヤナギ	アゲハチョウ、モンシロチョウ、ツマグロヒョウモン、アカタテハ、ヤマトシジミ、ツバメシジミ、チャバネセセリ、イチモンジセセリ
植栽後	スイゼンジナ、ミニヒマワリ、サツキツツジ、コスモス、スミレ、ジニア、チェリーセージ、ハゴロモフジバカマ、ダンギク、ガウラ、スナビキソウ、ウィンターコスモス、トベラ、サンジャクバーベナ、ホーリーバジル、フジバカマ、マリーゴールド、トウワタ、アレチハナガサ、ブッドレア、ムシトリナデシコ、セイヨウフジバカマ	キアゲハ、ヒメアカタテハ、ベニシジミ、ルリシジミ、ウラナミシジミ、クロマダラソテツシジミ

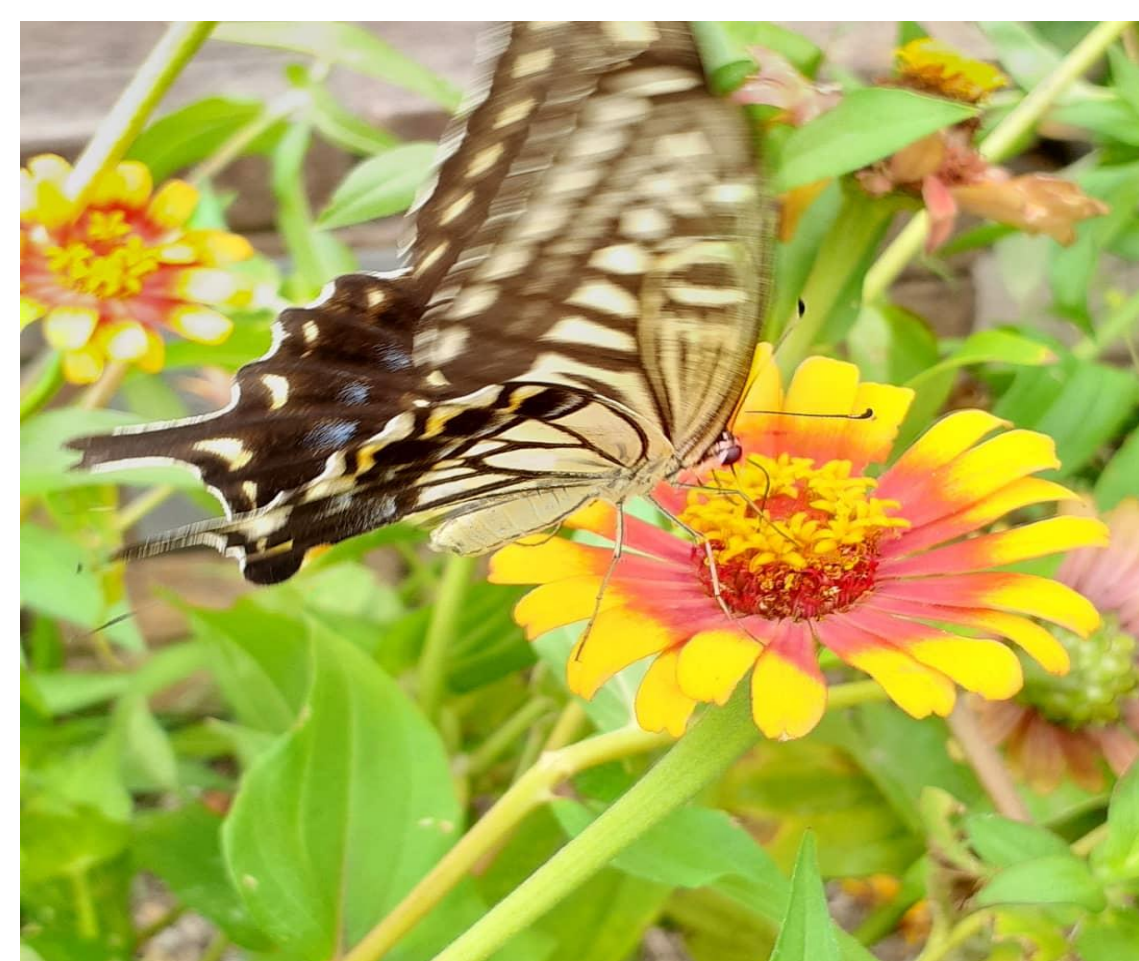


吸蜜植物植栽前のメイン花壇



吸蜜植物植栽後のメイン花壇

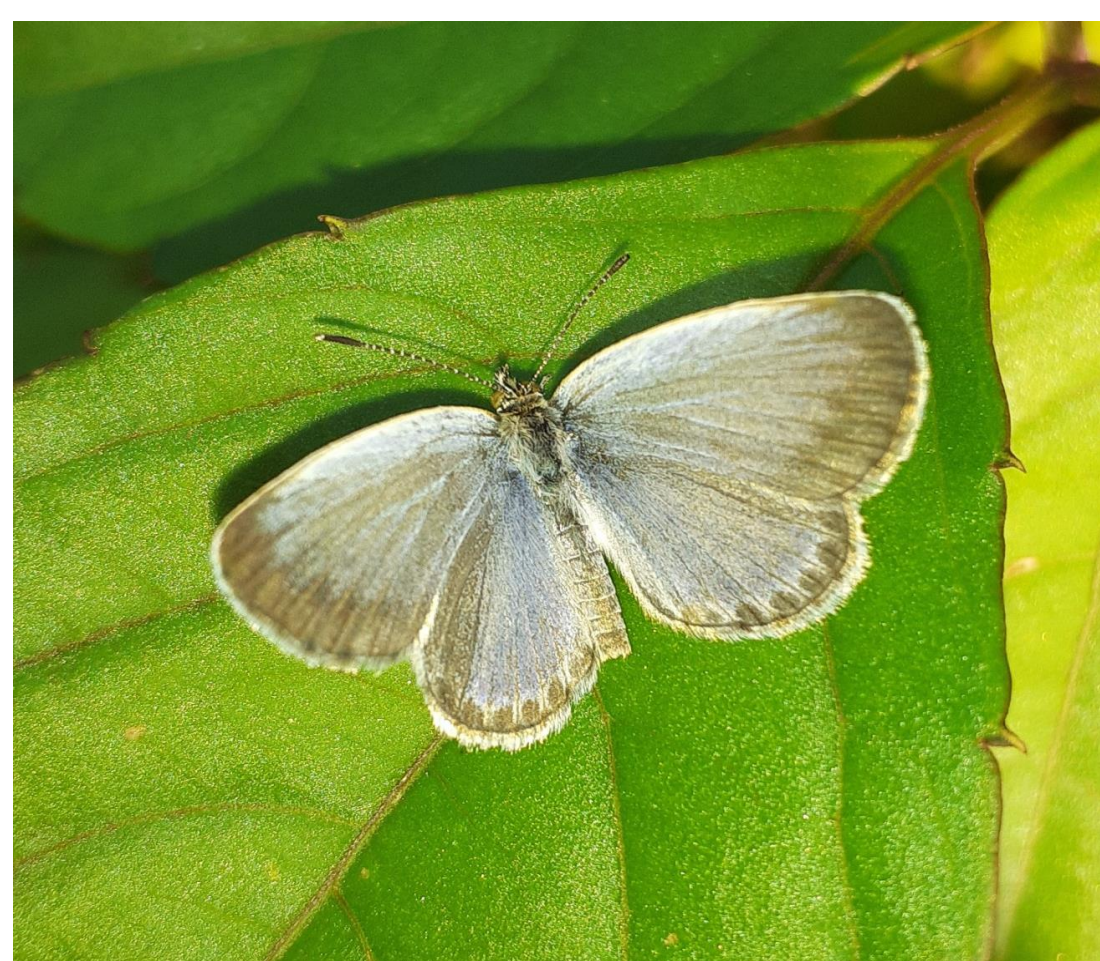
サンクンガーデンで見られたチョウの写真



ナミアゲハとジニア



モンシロチョウ



ヤマトシジミ



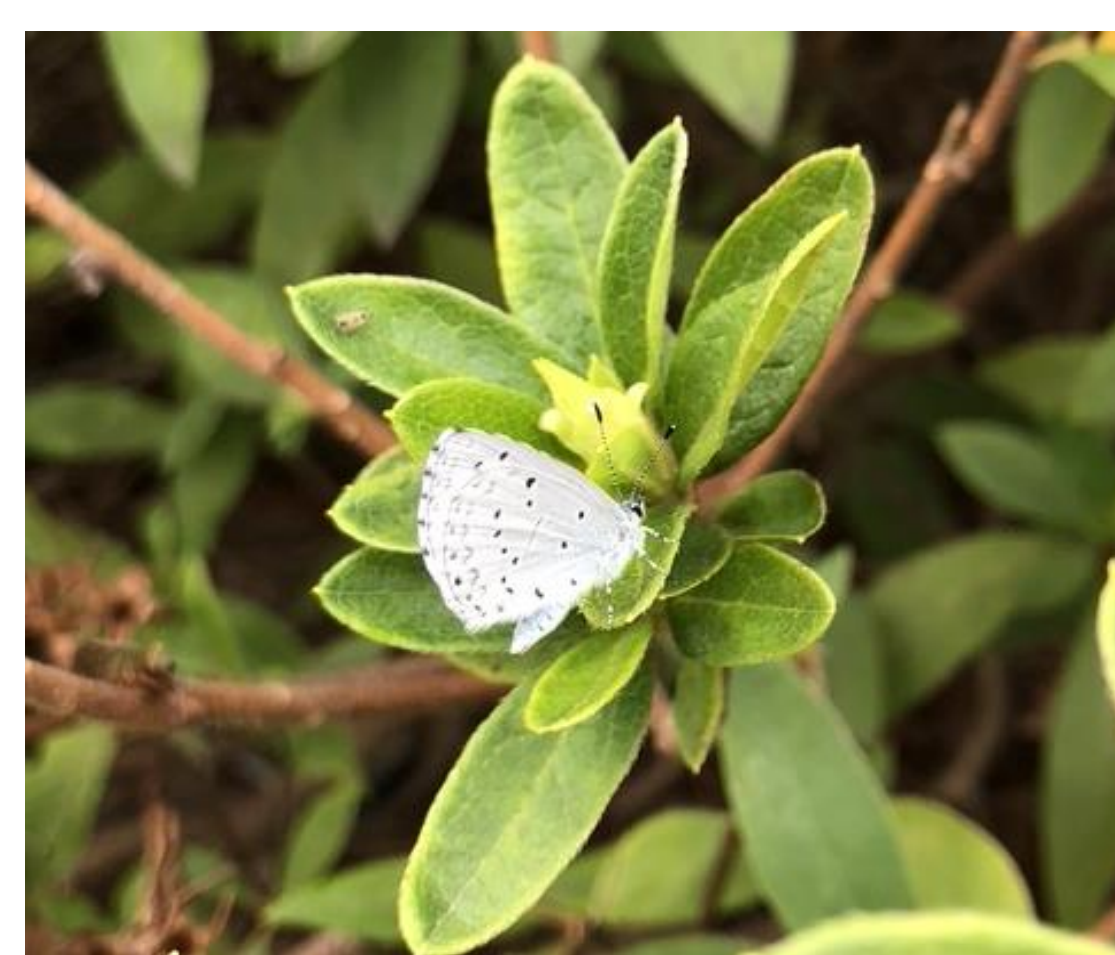
ヤマトシジミとウィンターコスモス



ベニシジミとサンジャクバーベナ



クロマダラソテツシジミとフジバカマ



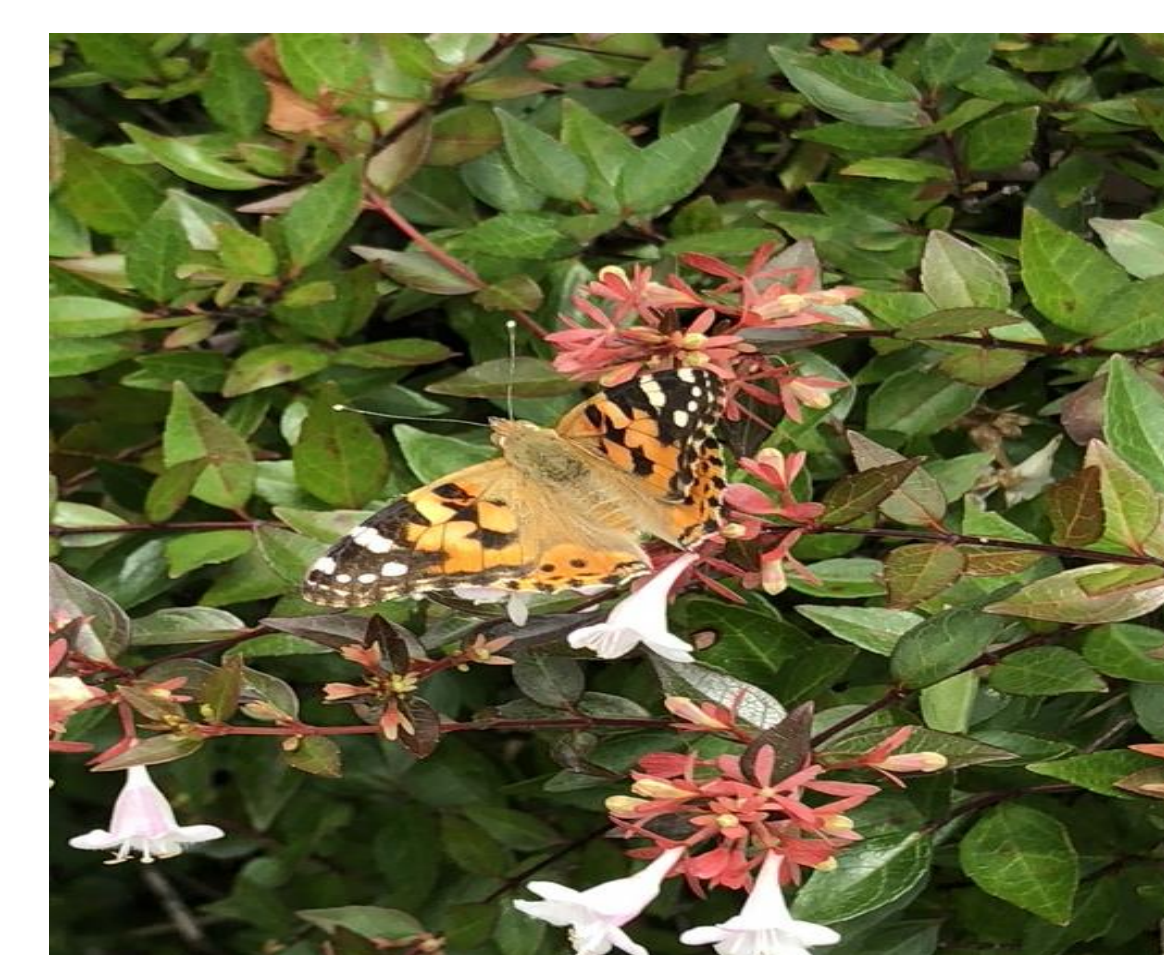
ルリシジミ



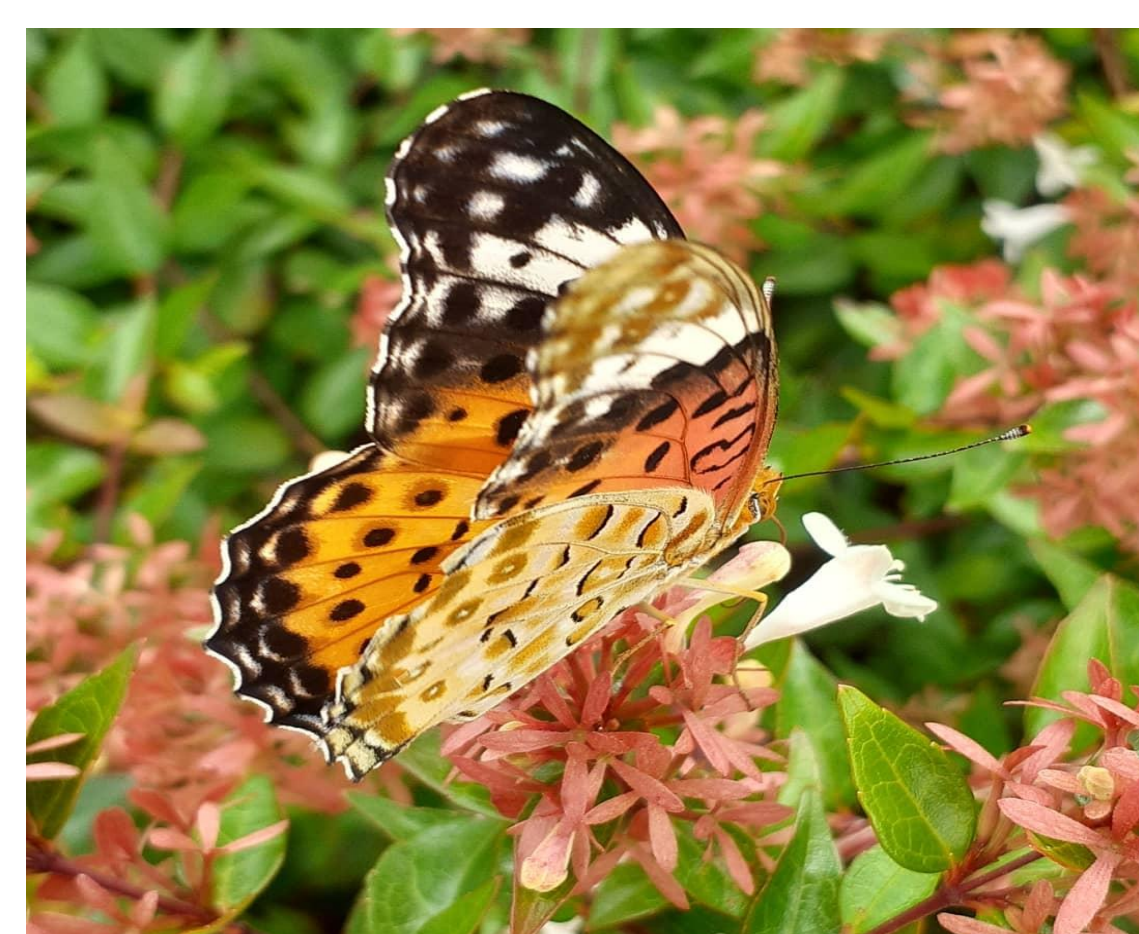
ウラナミシジミ



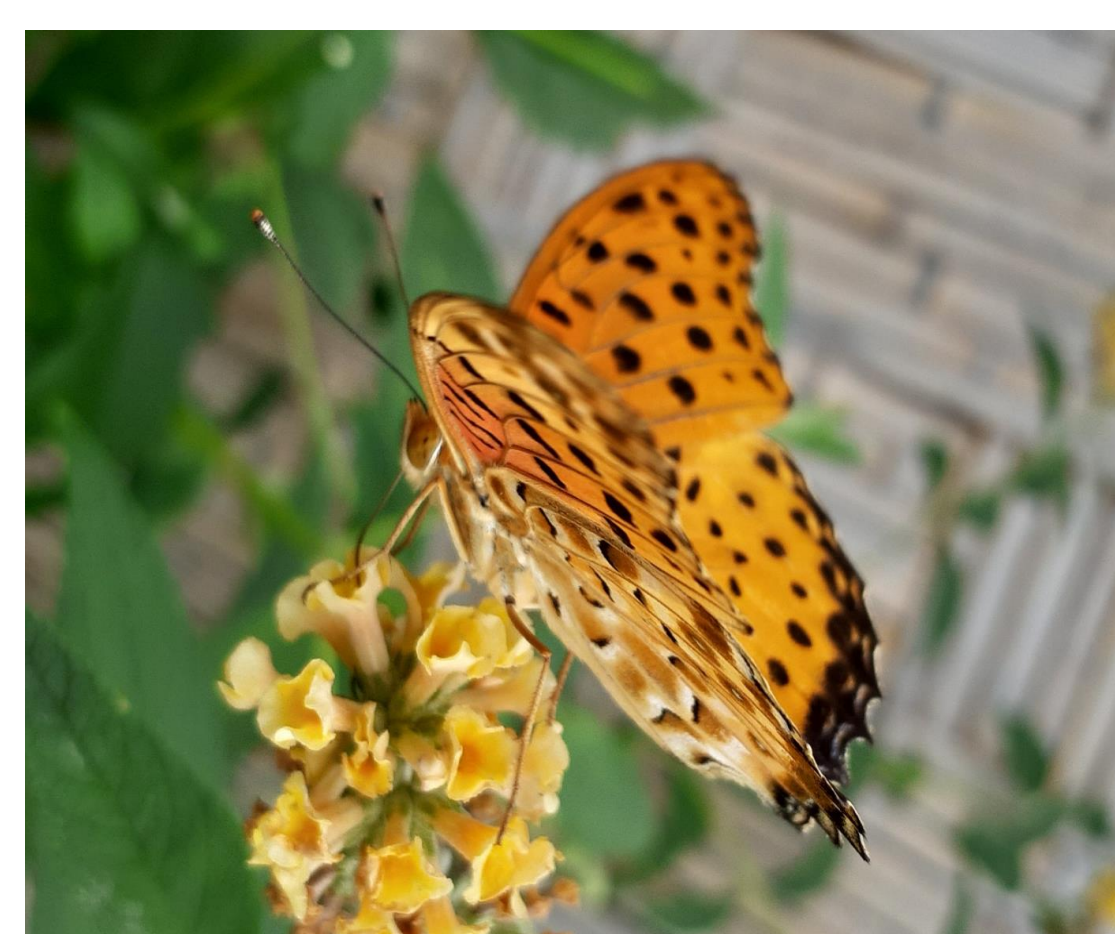
ツバメシジミ



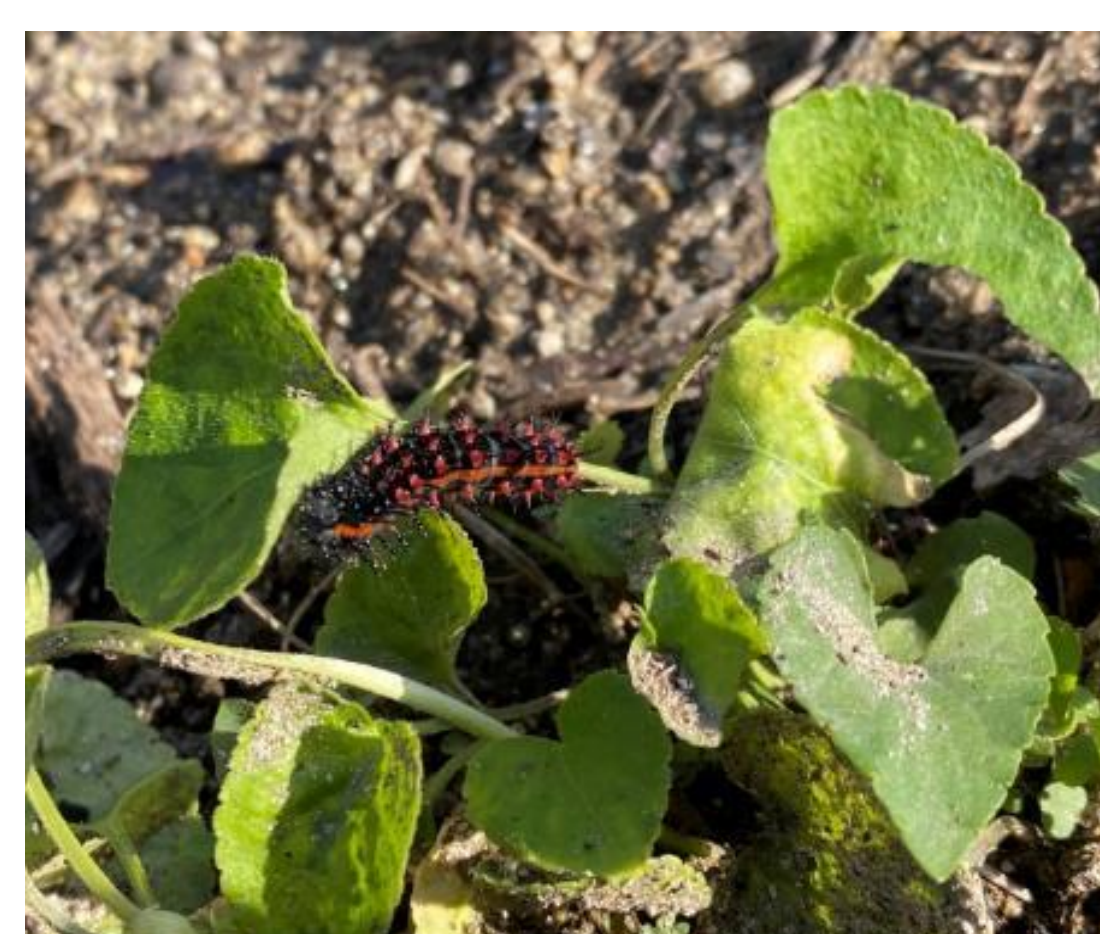
ヒメアカタテハとアベリア



ツマグロヒョウモンとアベリア



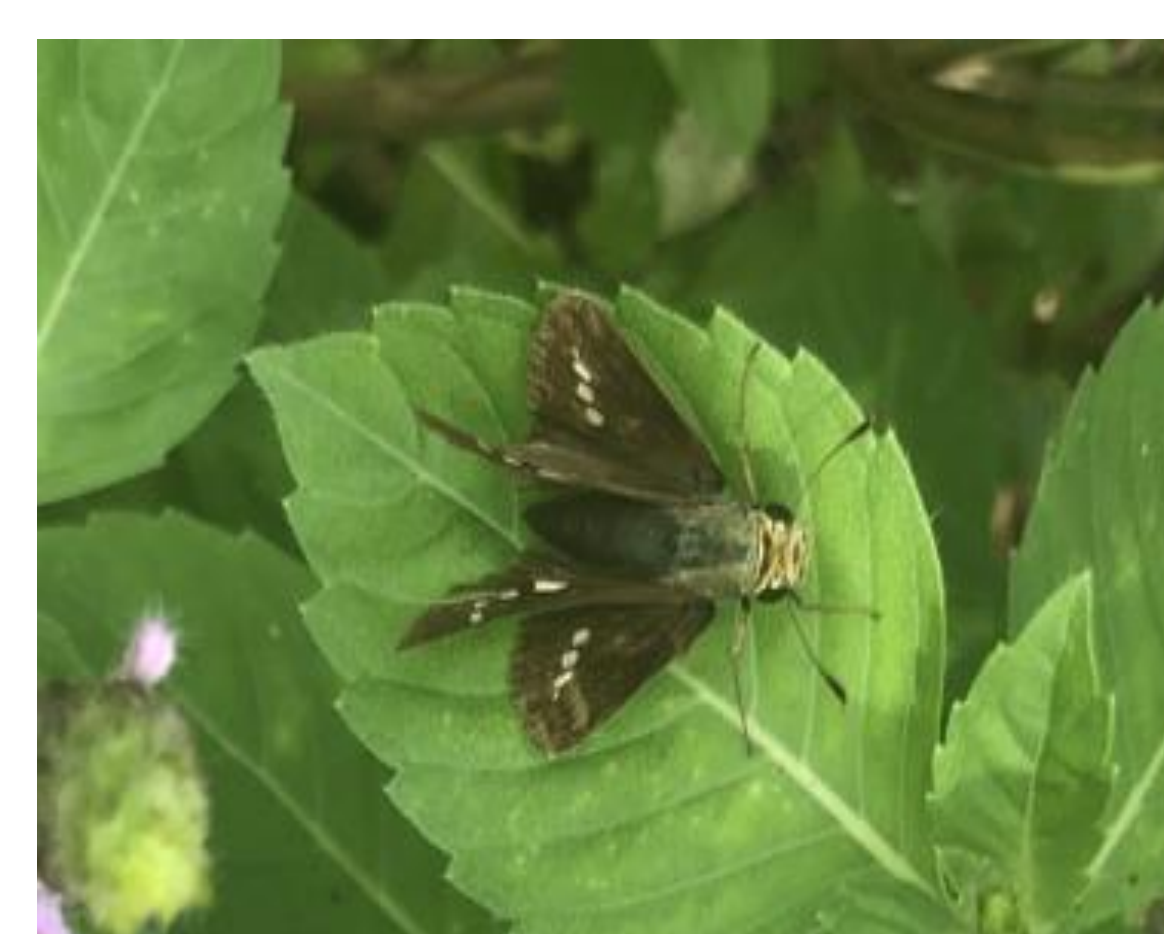
ツマグロヒョウモンとブッドレア



ツマグロヒョウモン(幼虫)スミレ



チャバネセセリとダンギク



イチモンジセセリ